

Jacques Henri Lartigue

— La Photographie, c'est magique! —

細見美術館

永遠の少年、ラルティグ

写真は魔法だ！

2018
4/21 sat
6/3 sun

20TH.
ホソミ

フロレット ヴァンス 1954年5月



おばあちゃん、ママ、ジスと愛用のカメラを持ったばかりの少女たち（パリ撮影） ブローニュの森、パリ 1903年



トビー 1923年

主催：細見美術館／京都新聞
会場：細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 tel.075-752-5555
休館日：毎週月曜日（祝日の場合、翌火曜日）
開館時間：午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
入館料：一般1,300円（1,200円）／学生1,000円（900円）※（ ）内は20名以上の団体
尚、KYOTOGRAPHIEパスポート提示で1,000円

<http://www.emuseum.or.jp>

特別協力：ジャック＝アンリ・ラルティグ財団
後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
協力：株式会社便利堂／KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭／
日本カメラ博物館
企画協力：コンタクト



Photographie Jacques Henri Lartigue © Ministère de la Culture-France/AAJHL

Jacques Henri Lartigue

— La Photographie, c'est magique! —

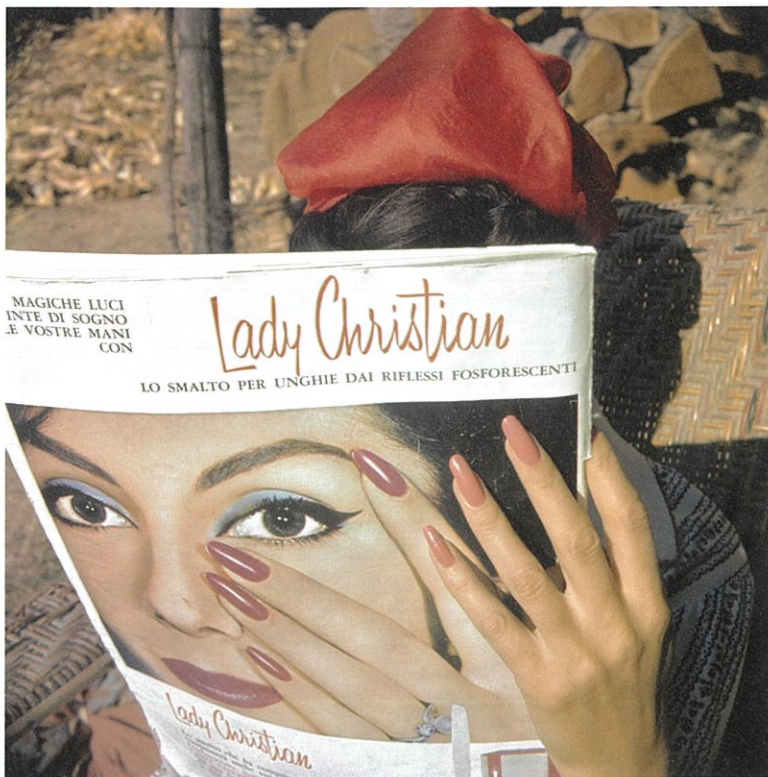
		1
4	3	2
5		

1. フロレットの手 プリール・ネフィエ 1961年
2. フロレット ピオツォ 1960年
3. ぼくの猫ジジ コルタンペール通り40番地、パリ 1904年
4. ダニとミシオンとボビー、フリーボールクラブにて カヌヌ 1936年5月
5. リチャード・アヴェドン ニューヨーク 1966年

フランスの裕福な家庭に生まれ育ったジャック＝アンリ・ラルティエグ(1894-1986)が写真好きの父親から三脚付きの暗箱カメラを与えられたのは7歳のときでした。

身の回りのさまざまな瞬間を残せる「カメラ」は、ラルティエグ少年にとってまさに「魔法の機械」だったのです。大好きな猫、自動車、飛行機といった動きのあるもの、時には心霊写真に挑戦するなど、彼のあくなき探求心はこの魔法の機械で、様々な作品を生み出してきました。ラルティエグはこの他にも、家族や友人、恋人とのひと時をとらえた作品や最新モードに身を包む女性たちやその社交場など、様々な輝かしい瞬間をとらえています。

本展では、彼の幼年時代から晩年までの代表的な作品や、日本初公開となるカラー作品を通して、写真をたのしみ、過ぎゆく時間や人生の歓びを捉えようとしたラルティエグの世界を紹介していきます。



関連イベント 詳細はホームページをご覧ください。

ギャラリートーク

※聴講無料 ただし別途入館料が必要

4月21日(土) 13時30分～

講師: 佐藤正子氏(コンタクト・本展企画者)

第43回アートキューブクチャー 「ラルティエグの魔法の小箱 —作家とカメラと作品と—」

※事前申込制・有料

5月12日(土) 14時～

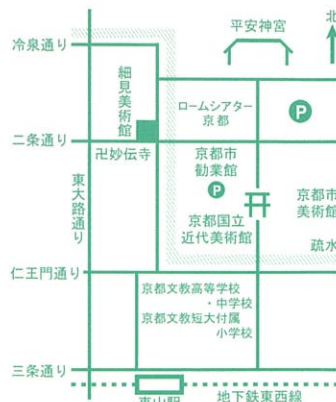
講師: 井口芳夫氏(日本カメラ博物館学芸員)

カラー写真が楽しめるオススメ展覧会!

「ニューヨークが生んだ伝説 写真家ソール・ライター展」

4月7日(土)～5月20日(日) 伊丹市立美術館
<http://artmuseum-itami.jp>

「蜷川実花写真展 UTAGE 京都花街の夢
KYOTO DREAMS of KAGAI」
4月14日(土)～5月13日(日) 美術館「えき」KYOTO
<http://kyoto.wjr-isetan.co.jp/museum/>



- 市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
- 市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分。
- 地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。

ご来館には公共交通機関をご利用ください。

次回展予告

「蛇足庵コレクション
江戸のなぞなぞー判じ絵ー」
6月9日(土)～8月19日(日)